

2022年度後期		知の市場(シラバス)						新規			
科目No.	関連講座GR441b	科目名	香りの化学(2)				副題	香り物質を題材にして物質とは何かを考察し、さらに香料づくりに関わる技術について解説する。			
連携機関名	化学生物総合管理学会	水準	基礎	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	第4水曜日21:00～23:00	拠点 (開講機関)	リモート・東京調布 (知の市場)
科目概要(300字)	香りを題材に化学の基礎を解説し、香料業界で使われているさまざまな技術について紹介する。まず、天然香料の採取方法、そこからの物質の分離技術を解説し、物質とは何かを考察する。つぎに、個々の物質の名前はどのように付けられてきたかを解説する。さらに、現代の香料会社が香料をつくるために駆使しているさまざまな技術を紹介し香料の役割を考察する。前期の「香りの化学(1)」では、香りの正体と認知メカニズム、香料会社の仕事、香料の歴史などを説明したが、前期の講義を受講していなくても理解できるように話をすすめるので、後期からの受講も歓迎する。										
科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)				講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
物質の理解	1	香料の原料	香りの正体や香料について概説し、前期の内容を簡単にまとめる。続いて、調合香料に使われている素材(天然香料や合成香料)の種類や特徴を解説する。				2022/10/26	Zoomを 活用して リモート 開催	藤田豊	藤田豊	化学生物総合管理学会 会員
	2	物質とは何か	嗅覚細胞が匂い物質を捉えることにより、人は匂いを感じる。その「匂い物質」とはどんな物か、また、よく「化学物質」と耳にするが、物質をわざわざ「化学物質」と呼ぶ理由は何なのか、といったことに触れながら、物質とは何かを考察する。さらに、混合物と化合物の違い、水という物質の不思議な挙動なども解説する。				2022/11/23				
	3	物質の名前	バラやジャスミンなどの花には、さまざまな成分(物質)が含まれている。天然香料とは、その中から香る成分を取り出したものである。天然香料の成分を細かく分けたものを単離香料という。細かく分けられた成分には名前が必要となる。物質の名前の由来について紹介する。				2022/12/28				
現代香料事情	4	香料産業を支える技術	香料会社で香りを創っているのは調香師だが、香料作りには調香師以外の技術者も大勢関わっている。分離抽出・分析同定・合成など比較的基礎的な研究開発をやっている人たち、あるいは、乳化粉末化といった製剤化技術を担当している人たちなど、さまざまである。香料産業を支える技術について解説する。				2023/1/25				
	5	現代の香料産業	世界の香料業界について、その規模、主要企業を紹介し、その中での日本の香料会社の特徴などを紹介する。また、調香はどこまで機械化が可能かどうか検証する。さらに、「香料不使用」と表示されている商品を見かけるが、その背景を考察するとともに、これからの香料産業のあり方を考察する。				2023/2/22				
「香料の化学」まとめ	6	香料からみた化学	香水用の香料を創る際には、香りそのものの良さ以外にも、溶解性、揮発性、残香性、経時安定性(着色性を含む)、安全性、経済性、安定供給性など、実にさまざまなことを考慮しなければならない。それら個々の特性と化学との関係を考え、これまでの講義を総括する。				2023/3/22				